

私部南遺跡発掘調査現地公開資料

財団法人 大阪府文化財センター

調査の概要

調査対象地は交野山の西麓に形成された扇状地西端の標高 24m 付近に立地しています。調査地一帯は交野市内でも比較的低湿な地区に当たり、最近まで遺跡は確認されていませんでしたが、第二京阪道路の予定地内の試掘調査によって、弥生時代から古墳時代の集落跡が確認され、発掘調査が実施されることになりました。

今回皆様に見ていただく調査区は、1 月 20 日に現地説明会を開催しました第 1 調査区の南側に位置する第 3 調査区で、調査面積は約 1,300 m²です。

遺構を確認した面は、第 1 遺構面（中世～近世）、第 2 遺構面（中世）、第 3 遺構面（弥生時代～平安時代）の 3 面です。第 1・2 遺構面では、耕作に伴う溝の跡を確認しました（写真 1）。

第 3 遺構面では、下記のような複数の時期にわたる遺構が重なり合った状態で見つかりました（写真 2）。

弥生時代中期…土坑

古墳時代後期…方形竪穴住居、溝、土坑、井戸、柱穴

古墳時代後期～平安時代…掘立柱建物、倉庫と考えられる総柱建物、柱穴

調査の評価

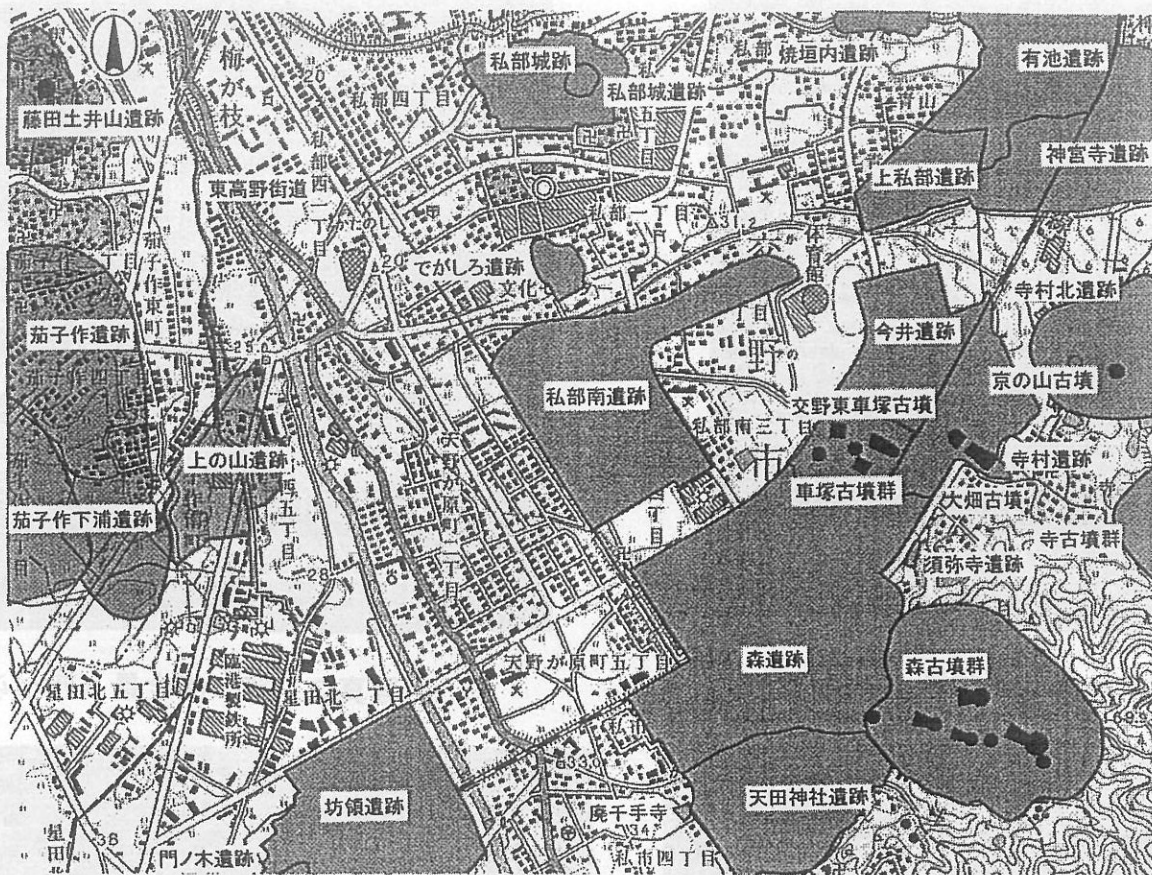
今回の調査区で検出した古墳時代の遺構は、第 1 調査区で検出した古墳時代の溝の続きや、3 回の建て直しが確認できる方形竪穴住居を検出したことで、古墳時代後期の集落域が更に南側に広がることがわかりました。

掘立柱建物と総柱建物は複数の建物が重なり合っており、また主軸を東に振る建物と西に振る建物が存在することから、古墳時代後期以降に少なくとも 2 時期以上にまたがる集落が存在したことがわかります。

今後の調査の予定

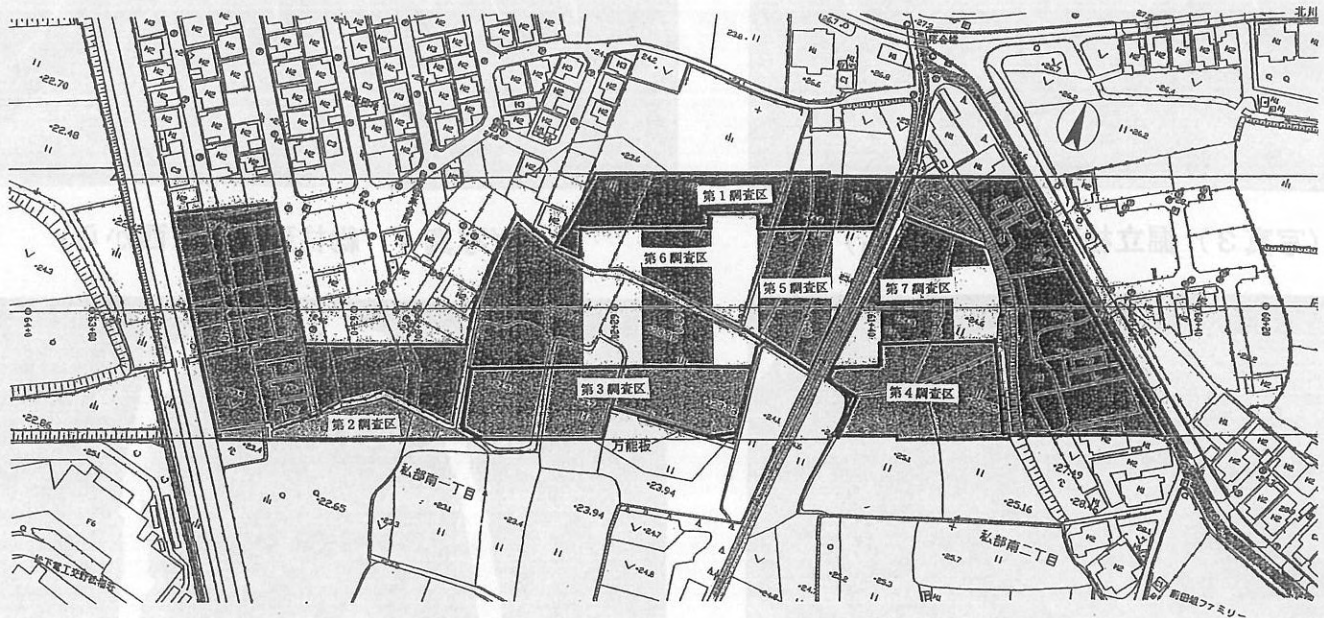
私部南遺跡（その 2）では、平成 20 年 1 月までの予定で順次調査を進めていきます。これからの調査により、私部南遺跡の変遷がさらに解明されることが期待されます。

今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

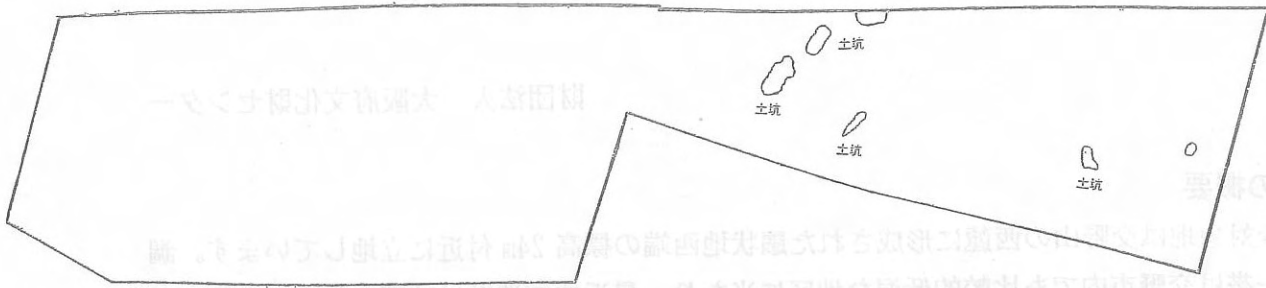


私部南遺跡とその周辺の遺跡

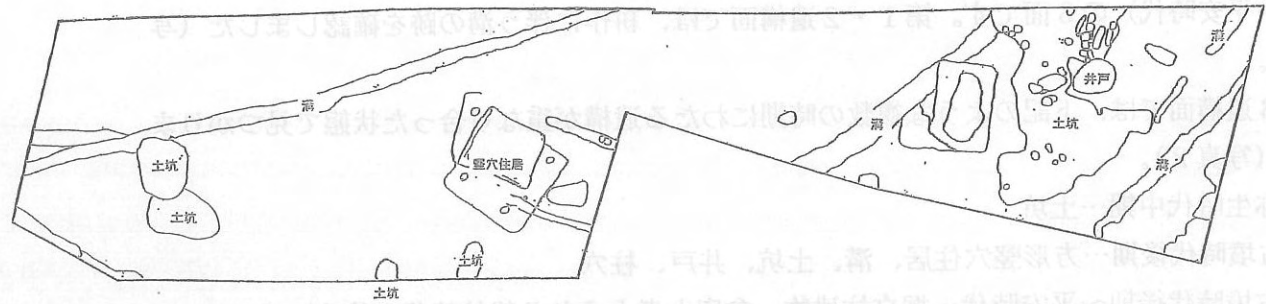
0 1km



私部南遺跡（その2）調査区配置図



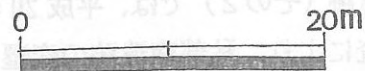
弥生時代の遺構



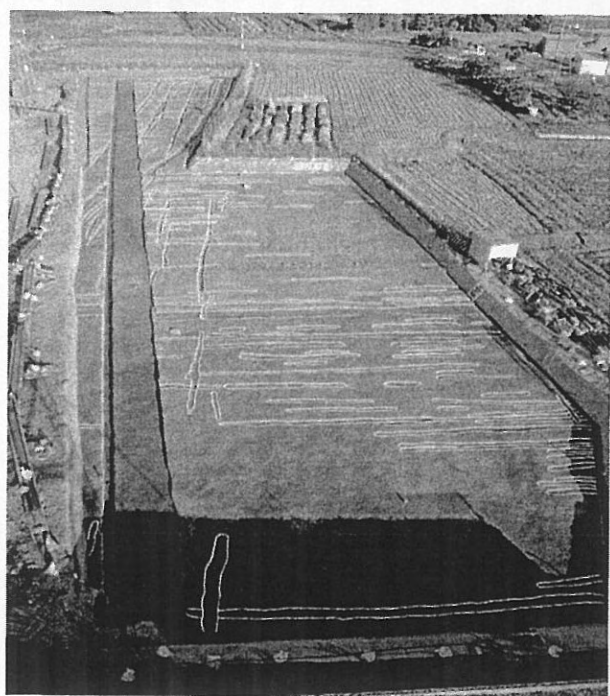
古墳時代後期の遺構



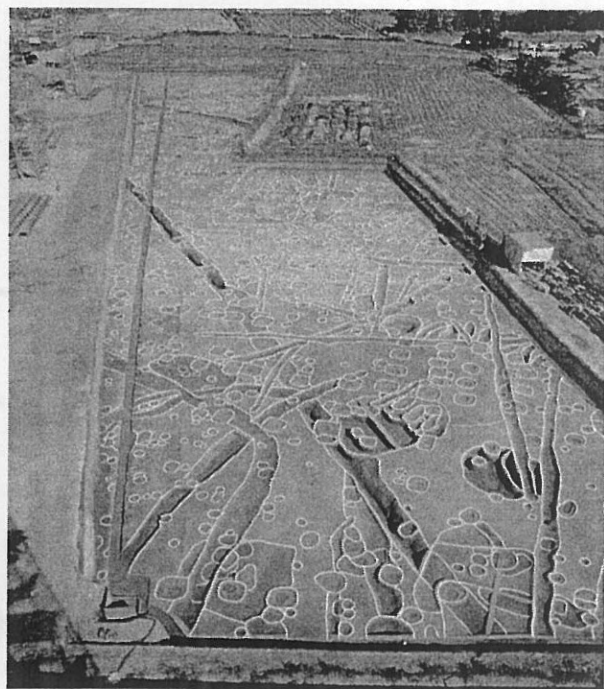
古墳時代後期～平安時代の遺構



遺構変遷図



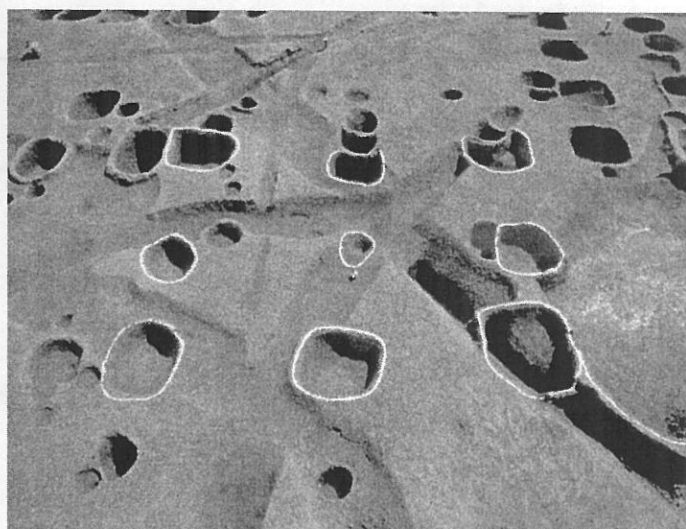
(写真1) 第2面全景 (西から)



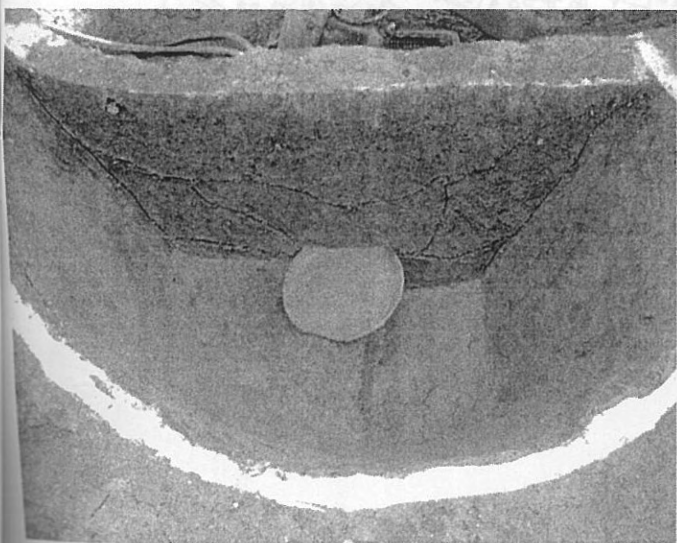
(写真2) 第3面全景 (西から)



(写真3) 掘立柱建物4 (西から)



(写真4) 総柱建物3 (西から)



(写真5) 掘立柱建物9 遺物出土状況 (北から)



(写真6) 掘立柱建物18 遺物出土状況 (北東から)